

研究・調査報告書

報告書番号	担当
472	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Fluctuations in male ischaemic heart disease mortality in Russia 1959-1998: assessing the importance of alcohol. 1959～1998 年のロシアにおける男性の虚血性心疾患死亡率について アルコールの重要性の評価	
執筆者	
Ramstedt M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Drug Alcohol Rev. 2009 Jul;28(4):390-5.	
キーワード	
アルコール、虚血性心疾患死亡率、ロシア	
要旨	
目的： 1985 から 1988 年のソビエト反アルコールキャンペーン後のロシアの心血管死亡率の減少と極端なアルコール規制が無効になった後の心血管死亡の増加は、アルコール摂取がロシアにおける虚血性心疾患死亡率 (IHD) の大きな原因となることを示唆した。本研究では、類似した結論がより長い時間 (すなわち、1959～1998) をカバーしている時系列分析でも確認できるかを調べることを目的とした。	
研究デザインと方法 解析には ARIMA モデルを使用し 1959 年から 1998 年の男性の虚血性心疾患の以下の 3 つのアルコール摂取の指標を用いて解析した。その 3 つは 1 人当たりの飲酒量、肝硬変とアルコール依存症による死亡率である。喫煙の指標としては、紙タバコの売り上げと肺がんの死亡率を指標とした。	
結果： 各々の飲酒量の指標は男性の虚血性心疾患 (IHD) 死亡率と二変量 ARIMA モデルで正の統計学的に有意な結果を示した。その関連は、若年男性 (30～54 歳) の虚血性心疾患死亡率 (IHD) でより強い関係を示した。少なくとも 1 つのアルコール指標は多変量モデルで IHD 死亡率と有意な関連があった。そして、若年男性 (30～54 歳) の虚血性心疾患死亡率 (IHD) の場合、両方の死亡率指標は有意であった。	
考察とまとめ この研究結果は、経験的にロシアで虚血性心疾患にアルコールが負の効果を示すと考えられていることを支持し、暴飲がこの効果を説明するメカニズムかもしれないという考えを支持します。ロシアの男性の間でアルコールによる虚血性心疾患への保護効果をしめすという兆候は見られなかった。	